

# 富士商會 第6回法人セミナー

## 気候変動リスクを考察

富士商會は2019年11月19日、東京都千代田区の帝国ホテルで、6回目となる法人セミナーを開催した。同セミナーは、「『保険金お支払い部門』と『防災・リスク発見のプロ』が見た報告」をテーマに2人の講師が講演し、第1部では、保険金を支払うことを通じて気付いた近年の自然災害と被害状況や、リスクサーベイの重要性の他、サプライチェーンを含めたリスク対策が企業活動を継続する重要なポイントになることを説明した。第2部は、風水災リスクへの対応方法や事業継続計画のポイントなどについて解説した。当日は、同社の顧客ら約60人が参加し、気候変動リスクについて考察した。



尾上氏



石川氏



本間氏

富士商會は2019年11月19日、東京都千代田区の帝国ホテルで、6回目となる法人セミナーを開催した。同セミナーは、「『保険金お支払い部門』と『防災・リスク発見のプロ』が見た報告」をテーマに2人の講師が講演し、第1部では、保険金を支払うことを通じて気付いた近年の自然災害と被害状況や、リスクサーベイの重要性の他、サプライチェーンを含めたリスク対策が企業活動を継続する重要なポイントになることを説明した。第2部は、風水災リスクへの対応方法や事業継続計画のポイントなどについて解説した。当日は、同社の顧客ら約60人が参加し、気候変動リスクについて考察した。

主催者を代表してあい は、台風15号・19号によ 述べることに、「気候 さつした同社常務取締役 って各地が被害を受けた 変動による風水災は、想 営業本部長の尾上俊一氏 ことにお見舞いの言葉を 定外の災害とは言えなく

第1部では、三井住友海上グローバル損害サポート部第一保険金お支払いセンター所長代理の石川敦史氏が「平成最大自然災害リスク〜1・6兆円の保険金お支払いからの気づき」と題し講演。18年度の自然災害と企業災害の傾向や、リスクサーベイの重要性、ユティリティ設備事故の多さについて説明した。



約60人が参加した

注意を呼び掛けた。また、台風による損害は、建物の破損が圧倒的に多く、その損害の大半は、建物の老朽化を原因とした倉庫・工場の屋根、外壁の剥離や破損、破損箇所からの雨水の吹込みなどによるものだとして、自家発電の場合は、ユティリティ設備事故による停電によって、電力会社からの電力購買が必要になることでコストが増加する他、供給業者の事故で企業への供給が

中断した場合も生産ラインに影響が出る場合があることから備えが必要だとし、「サプライチェーンを含めたリスク対策が必要であり、それが企業活動を継続する重要なポイントになる」と語った。

第2部では、MS&A Dインテグリティリスク総研マネージャー上野康弘氏が「気候変動を受け入れ、BCP対策を抜本的に見直す」をテーマに、事業継続計画の洗い出しや必要な設備、インフラなどの業務影響度分析(優先業務の特定)を実施してからの対応策を検討することだとして。

中豪雨の増加と地震被害の激甚化を挙げ、

「台風は、大型で強くなっている。今後大規模な地震が発生する可能性が非常に高まっている」と

「台風は、大型で強くなっている。今後大規模な地震が発生する可能性が非常に高まっている」とし、「保管状況を確認す

る必要がある」と強調した。

同氏はまず、過去の水害と土砂災害について振り返った他、風水害などによ

### 自然災害の傾向と風水災リスク対策解説

本セミナー終了後は、直近の台風被害と重なり喫緊の課題だったことから、参加者から多くの質問が寄せられた。